

○ザンクト・ヴォルフガング

湖の中央にあり、やはり湖畔にはレストラン、お土産店が並んでいる。

ここからシャーフベルグ山に登る、1893年開通の登山鉄道が出ている。2両の客車をアプト式レールで蒸気機関車が押し上げていくもので、山頂まで45分。距離は5.85kmで、その間の標高差は1190m。終点から少し歩くと頂上で、1783mの高さから360度のパノラマが開け、ハルシュタット湖は見えないが、モント湖、ヴォルフガング湖、アッター湖といくつもの湖が見渡せる。

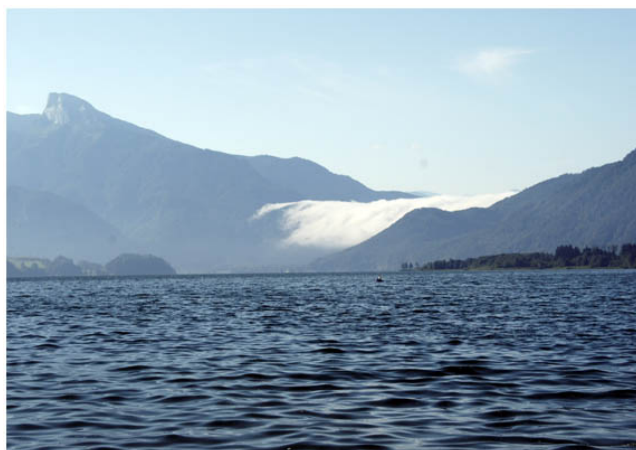
7. モント湖

湖の名前と街の名前（モントゼー）が同じ。三日月に似ているのでこの名前がついた。教会などがある街の中心から並木道を通って湖へ。湖岸は所々に建物がある程度で、ヨットが何隻か浮かんでいる



モント湖-1

シャーフベルグ山から。モントゼーの街は一番奥



モント湖-2

モントゼーで。向こうの高い山がシャーフベルグ山。朝ここにいて昼過ぎには山頂に

岸からシャーフベルグ山が見えていた。はるか遠くであったが同じ日の午後、登山列車で登って山の上から湖を見ることとなった。

モント湖の南東端からゼーアヒェ川となって流れ出し、3km下流のアッター湖に入り、湖の北から流れ出てドナウ川の方に流れていく。

8. トラウン湖

ツアーに入っていないと行けなかったが、長さ12km、最大幅3kmで面積は24.5km²。最大水深は200m。国内でもっとも深く、透明度が高いとされる。湖の最北、トラウン川が流れ出るところの街が人口1.3万人のグムンデン。陶器産業の街で、市電も走っている。ここには現地陶磁器メーカーのラウヘン社が設立したサニタリー博物館がある。トイレや洗面の収集品を主として中央ヨーロッパから集めている。

9. アッター湖

シャーフベルグ山のふもとにあって、ザルツカンマーグートで一番大きな湖である。南北20km、東西4km。モント湖からゼーアヒェ川が流れ込む。

10. ザルツブルグ

街の中心をザルツァッハ川（塩の川）が流れる。今は音楽の都になっているが、もともとは塩の町であった。

人口14.8万人と大きな都市で、モーツァルトの街でもある。1756年にここで生まれ、生家も残されている。



ザルツブルグの街

南岸の展望台から。

向こうの橋のこちら側にモーツァルトの生家



小島を庭にした家
ハルシュタット湖で



デュルンシュタインの街（ヴァッハウ渓谷）
右上に英国のリチャード獅子王が幽閉されたという
ケーリンガー城址。ホテル船が停泊

20才になってウィーンに移り住んだ。

紀元前2500年頃近郊で塩の採掘がなされ、その後上流の鉱山がはじまり、ザルツァッハ川から広い地域に輸送された。ローマ時代になっても塩の集積地として重要で、要塞も築かれた。

8世紀末になって大司教座といわれる、カトリックで広い範囲の統治権を有する場所となり、多額の税が集まるようになり、城塞や宮殿がつくられた。ミラベル宮殿で、王族でなく大司教の宮殿である。1818年の火災によって、昔の姿はとどめていないが、大理石の間は結婚式場として有名となっている。庭園もある。

司教の住居となった大司教館も別にあり、この会議の間で6才のモーツァルトが大司教の前で演奏した。ザルツブルグは中継貿易の中心ともなっていて、繁栄は1803年ナポレオンに支配されるまで続いた。ザルツァッハ川は北に流れてドナウ川に注ぐ。

11. ヴァッハウ渓谷

ザルツカンマーゲートの川は、北に流れて東に流れるドナウ川に注ぐ。少し下流にヴァッハウ渓谷がある。ここはドナウ川の観光名所で、メルクからクレムスまでの下りが1時間40分、上りが2時間40分のクルーズがある。丘陵が広がり、古城、教会が散在し、ブドウ畑が広がっている。

ツアーでは三百人くらい乗れるけっこう大きな船だったがほぼ満席であった。クルーズしながらところどころ小さな街の船着き場に寄っていく。そのときのドナウ川の水量はかなり多く、流速も早く、泥水であった。ツアーの行程で橋があったのは最初と最後で、途中いくつか渡し船を見かけた。川の上にワイアーを張り、流されないようにロープの先を引っかけて移動し



クレムスの乗降場
この船でクルーズ。川の流れは非常に速い

ている船もあった。

ドナウ川には、何日もかけて川を巡るホテル船によるツアーがあり、細長いが百人は収容できるような大型の船がヴァッハウ渓谷までさかのぼってきていた。ウィーンの美術史博物館の喫茶店でたまたま一緒になったお医者さんらしい、アメリカに長く住まれた日本人の老夫妻はニューヨークから、ドナウ川のクルーズツアーに参加されていた。迎いの船の待ち合わせ場所までの地下鉄路線は途中で乗り換えがあったので、乗り換えの列車まで案内した。

12. オーストリアのこと

マッターホルンやユングフラウなどの山々やウィンターリゾートなど有名なものがあまりなくてスイスに比べ日本からの観光客は少ないと思われる。

国土面積は8.4万km²とスイス4.1万km²の2倍ある。首都のウィーンはスロバキア国境まで約40kmくらい



ウィーンのドナウ川
ウィーンの北のカーレンベルクの丘から。
右側がドナウ川，左が新ドナウ川。

しかない東の端にあり，国境線の経緯が複雑であったことを物語る。

人口は836万人でスイス757万人と同程度。地形はスイスに比べて少し穏やかに感ずる。街の景観はスイスと同様どこにいてもきれいであった。

言葉はドイツ語で同じ言葉を話す国が並んでいるのは不思議であるが，ドイツ，フランス，イタリア，ロマンシュと公用語が4言語もある，スイスが幾たびもの激しい戦乱にもかかわらず，何百年にもわたり独立と体制の持続をできていて，言語も統一されないという方が不思議なことである。



シェーンブルン宮殿のグロリエッテ
広い庭園奥の小高い所にあり，通常は宮殿から遠望するだけである。時間はかかるが近くまで行くと大きな建物で，手前に水鏡となる宮殿からは見えない大きな池がある。



ベルヴェデーレ宮殿の池
ウィーン中心市街の近くにあり，広い庭園のなかに沢山の池がある。